

8 . その他

8 (1) 酪肉近で示されている「農場段階のH A C C P」とは、具体的に何を意味するのか。

(答)

- 1 H A C C Pとは危害分析重要管理点の略で、食品の安全性を確保するためのシステムとして開発されたものであり、食品の製造工程において、
(1)危害の原因となり得るすべての分野の特定(危害の分析)
(2)危害の発生防止の管理手続きを設定(重要管理点)
(3)モニタリングの恒常的实施と、管理手続遵守状況の確認を行うことにより、食品の安全性を確保するシステムです。

- 2 安全な食品に対する消費者の志向が高まる中で、生産段階における安全性確保対策の整備・強化を図り、国産畜産物に対する消費者の信頼を確保するため、生産段階にH A C C P方式に基づいた衛生管理ガイドラインを導入し、安全な畜産物の生産供給を図るため、平成8年度より、モデル事業を実施し、衛生管理ガイドラインの策定を目指しているところです。

8 (2) 現状では、豚に対し4～7種類ものワクチンを接種している。いち早く省力型ワクチンを開発して欲しい。

(答)

- 1 近年の家畜飼養の多頭化・集約化により、ワクチン接種の必要性が増加している状況において、省力型ワクチンの開発促進は、生産資材費の低減化を図るための施策としても重要と考えており、国としても次のような事業を行っています。

多機能・省力型ワクチンの実用化基盤の開発事業

(農林水産試験研究費補助金、H11～15年)

海外開発ワクチン等実用化促進事業

(指定助成事業、H12～14年)

- 2 「多機能・省力型ワクチンの実用化基盤の開発事業」は、遺伝子組換え技術等の先端技術を用いて、組換え生ワクチン等を開発する事業ですが、豚用のものとしては、次の2種類のワクチンを対象として実施中であります。

豚萎縮性鼻炎・豚丹毒・PRRS混合ワクチン

豚マイコプラズマ肺炎・PRRS・豚インフルエンザ2価混合ワクチン

- 3 また、「海外開発ワクチン等実用化促進事業」は、本年度(H12年度)から開始するものですが、この事業では、海外ですでに使用されている混合・多価ワクチンあるいは開発中の混合・多価ワクチンの早期実用化が期待されます。